

## ■那覇市消防の沿革

西 暦	月 日	沿 革
1887年 (明治20年)	12月12日	那覇区に消防組織のないのを憂い那覇市消防組々頭、中村少々進と副組頭、門岡信次郎等(明治20年)が有志を説きつけて石門通り会を拠点とする私設消防を結成した。
1909年 (明治42年)		手押しポンプ2台購入。
1912年 (大正元年)		消防組織設置。石門通り消防団は、那覇警察署管轄下の消防組に移行編入された。官設消防の始まりである。
1914年 (大正3年)		沖縄初の飛行実験の消防警備に参加(場所:湯原)墜落機の下敷きとなった幼児1人を救助した。
1916年 (大正5年)		・警察管轄の警察組から那覇区消防組へ移管編入。自治体消防の始まりであり、組員を増員した。(実数不明)
1920年 (大正9年)	1月6日	那覇区消防出初式が250余人の消防手の参加により奥武山運動公園で挙行された。当時の那覇区消防組の組織一部(旧西字)二部(東、垣花)三部(久米、泉崎)四部(久茂地、若狭町)五部(泊、牧志、壺屋)六部(辻)。 消防用井戸を六ヶ所に新設。井戸(高橋町、上泉、若狭町)水溜(上泉町、東町、上蔵町)
	11月	那覇組発会する。
1921年 (大正10年)	1月	郵船倉庫の悲惨な大火は大正10年1月17日午後8時頃通堂町1丁目鹿兒島郵船倉庫会社倉庫小屋から出火し、死者5人、重軽傷者16人、軽傷者数10人、消防夫の負傷20余人と多数の死傷者を出した。 沖縄県区特別法(那覇区)が廃止され、一般市制が施行されたので、那覇区消防組を那覇市消防組へ改称した。非常備で組員は約125人、毎夜数人交代で夜警をした。
		大型腕用ポンプ5台保有。
1923年 (大正12年)		辻町大火発生、5台の腕用ポンプでは防ぎよがなく、辻町の大半が焼失した。この大火を契機として組員は消防施設の強化を要求する運動を展開した。
	6月	那覇消防会議5千円で自動車ポンプを購入する。
	12月	辻遊廓の大火。
1925年 (大正14年)		待望の手押しガソリンポンプ1台購入(沖縄初)。
1926年 (大正15年)		米国製ガソリンポンプ自動車(フォード)1台購入。
1927年 (昭和2年)		初めて常備組員7人を配置。
1930年 (昭和5年)		ドイツ製ガソリンポンプ自動車(レオ)1台購入、腕用ポンプ5台は他町村に譲渡。

1932年 (昭和7年)		国産ガソリンポンプ自動車（トヨタ）1台購入。
1933年 (昭和8年)		市役所に時報兼非常召集用サイレン（15馬力）設置。
1939年 (昭和14年)		国策により自治体管轄の消防組を警察管轄の警防団に編入し、国の指揮下に置かれた。
1944年 (昭和19年)	10月10日	米軍機の空襲により全市の90%が焼失した。死者225人、負傷者358人、焼失家屋15,648戸。
1945年 (昭和20年)	4月	警防団員は、米軍の激しい砲撃の下で人命財産を守るため必死の活躍をした。しかし、戦況が悪化してドイツ製ポンプ車は宜野湾で撃破され、国産、米国製のポンプ車は首里戦線で放棄した。この沖縄戦で警防団員50余人が殉職した。
1949年 (昭和24年)	8月31日	壺屋小学校で消防団結成式を挙行、5分団に編成、団員250人、団長に市議の新垣松助氏副団長に比嘉松次氏、渡具知武真氏が就任した。市役所社会事業課（現在のグランドオリオン）に事務所を置く。
1950年 (昭和25年)	1月6日	戦後初の消防出初式を挙行。
	6月12日	ガリオア資金で水そう付消防ポンプ自動車（ニッサン）1台を購入8月、9月に各1台購入。
	6月21日	那覇警察署隣り（旧デパートリウボウ）にテント小屋の車庫を設置して消防団事務所移転。
	6月30日	常備団員3人配置。
	7月3日	3人増員、定数6人。
	10月25日	消防業務に関する法（軍政府布令第28号）
1951年 (昭和26年)	5月	消防講習所（現消防大学）へ職員1人研修派遣。
	6月24日	栄町のアイスクリーク店から出火した火災で住家16棟全焼。
	8月30日	字松尾61番地に消防団本部を新築し10月13日移転。
	9月20日	ガリオア資金で水そう付消防ポンプ自動車1台購入。
	10月30日	牧志町で米軍ジェット機補助タンク落下事故（死者3人、重傷2人）。
1952年 (昭和27年)	6月1日	4人増員、定数10人。
	12月22日	消防法公布施行。
1953年 (昭和28年)	10月	防火水そう4基設置、戦前の2基を補修。
1954年 (昭和29年)	2月23日	大宝館（映画館584.1㎡）全焼。
	4月28日	火災予防規則施行。
	4月29日	危険物取締規制施行
	6月30日	2人増員、定数12人。
	8月10日	消防団本部を消防隊本部に改称。
	9月1日	首里市と小禄村、那覇市へ合併、首里市消防隊と小禄村消防隊を那覇市消防隊に編

		入し出張所とする。三輪ポンプ車2台、水そう付消防ポンプ自動車5台、合併で11人増員、定数23人。
	10月1日	米軍より中古消防車4台の払い下げを受け、1台に発電機を積載し照明車とする。
	11月15日	首里出張所落成。
	11月25日	泊出張所設置。
	12月14日	初代消防隊長 登川正太郎 就任。
	12月31日	5人増員、定数28人。
1955年 (昭和30年)	8月1日	4人増員、定数32人。
	11月20日	市内電話、一部の自動化に伴い火災専用電話が「444」から「117」番となる。
1956年 (昭和31年)	8月1日	4人増員、定数36人。
	9月3日	琉大志喜屋図書館半焼。
1957年 (昭和32年)	5月1日	2人増員、定数38人。
	7月5日	初代消防隊長の登川正太郎 退任 (在職期間 2年6ヶ月21日)
	7月6日	第2代 消防隊長 具志清一 就任。
	8月	台風のため泊出張所庁舎 (トタン葺) が全壊したため同出張所を廃止。
	11月1日	8人増員、定数46人。
	12月17日	真和志市と合併、真和志市消防隊を真和志出張所に改称し定数64人となる。水そう付消防ポンプ自動車12台、三輪ポンプ車2台。
1958年 (昭和34年)	11月17日	消防隊長 具志清一 退任 (在職期間1年4ヶ月11日)
	11月18日	第3代 消防隊長に松本吉英 就任。
	12月末日	現在の消防力、人員64人、車両14台、1本部、5出張所、消火栓558基、防火水そう22基、出火件数155件、損害額3,668ドル、人口190,652人。
1959年 (昭和34年)	2月	三輪ポンプ車のポンプをジープ車へ装備。
	3月24日	西新町2-36 (現東町26番12号) に消防本部庁舎新築。
	4月30日	移転、旧本部庁舎を松尾出張所に改称。
	4月25日	桜坂パー街で大火、全焼14棟、部分焼5棟、焼損面積526㎡。
	7月14日	7人増員、定数71人。
	8月	福岡県消防学校へ初任科研修生2人を派遣。
1960年 (昭和35年)	5月17日	字宇栄原に小禄出張所庁舎新築、小禄支所構内から移転。
	7月	はしご付消防自動車 (18m) 1台購入。
	8月	15人増員、定数86人。
1961年 (昭和36年)	2月1日	消防隊長 松本吉栄 退任 (在職期間2年2ヶ月13日) 隊長事務取扱として当時副隊長の仲本興徳が職を兼務する (任期1年)。
	7月1日	沖縄県が全国消防長会へ加盟する。
	11月4日	那覇港接岸中の英国貨物船ハーバレオン号火災、積荷 (コプラ) の消火のため長時間を要した。

1962年 (昭和37年)	2月1日	第4代 消防隊長に宮平栄治 就任。
	8月1日	8人増員、定数94人。
	10月	九州地区消防ポンプ操法大会（長崎市）へ選手派遣。
	12月15日	消防組織法の施行に伴い消防本部、消防署及び消防団本部を設置、消防隊長を消防長に改称。 宮平栄治が初代消防長に就任。 初代消防団長に武村朝良氏 就任。
1963年 (昭和38年)	8月12日	4人増員、定数98人。
	8月17日	みどり丸沈没事故（死者86人、行方不明26人）、泊港北岸に現地対策本部設置。
	10月5日	樋川大火、全焼27棟、部分焼9棟。
	10月	水そう付消防ポンプ自動車（ニッサン）3台購入。老朽車（米軍払い下げ車）は廃車。
1964年 (昭和39年)	4月24日	5人増員、定数103人。
	8月12日	南部消防協議会発足。本市に事務局を置く。
1965年 (昭和40年)	4月	水そう付消防ポンプ自動車1台購入。
	11月1日	3人増員、定数106人。
1966年 (昭和41年)	2月	水そう付消防ポンプ自動車3台購入。
	10月1日	5人増員、定数111人。
1967年 (昭和42年)	4月	水そう付消防ポンプ自動車4台購入。
	8月	レインジャー隊員6人久留米市消防本部へ1週間研修派遣。
	9月15日	3人増員、定数114人。
1968年 (昭和43年)	5月	水そう付消防ポンプ自動車2台購入。
	5月17日	第1回南部地区消防団訓練大会開催。
	9月5日	4人増員、定数118人。
	9月30日	消防無線電話設置運用開始。（基地局6、固定局6、移動局10）
	12月23日	消防長 宮平栄治 退任（在職期間6年9ヶ月28日）
	12月24日	第2代 具志清一 就任
1969年 (昭和44年)	2月17日	首里、安謝、小祿の各出張所を分遣所に改称。
	9月1日	火災専用電話「117」番から「119」番へ変更。
	10月23日	八汐荘において第1回沖縄県「消防人のつどい」開催。
1970年 (昭和45年)	5月29日	本市消防団第1回全琉消防団訓練大会で優勝。
	6月	スノーケル車（15m）1台購入。
	9月	日本損害保険協会より水そう付消防ポンプ自動車1台寄贈。
	9月22日	立法第171号で消防組織法及び消防法の一部が改正され10月1日付けで警察の所管となっていた建築同意事務と危険物規制事務が市町村消防に移管された。
	10月19日	13人増員、定数131人。

1971年 (昭和46年)	5月10日	安謝分遣所庁舎新築移転、出張所へ昇格。
	6月3日	沖縄県消防協会事務局、琉球政府総合対策室から本市消防本部へ移転。
	7月	水そう付消防ポンプ自動車1台購入。
	11月1日	8人増員、定数139人。
1972年 (昭和47年)	3月	20人増員定数159人。
	5月15日	本土復帰に伴い消防制度の本土一体化を図るため、5月から10月までに消防関係条例、規則、規程を本土並に制定改廃。 那覇市消防署を那覇市西消防署に改称し、真和志出張所を那覇市中央消防署へ昇格。
	6月1日	警察所管の救急業務が市町村消防へ移管され、2台の救急車（トヨタクラウンバン）を譲り受け業務を開始。
	7月31日	字上間のアパートでプロパンガス爆発（死者1人、負傷者5人、アパートの370㎡全壊）県内でプロパンによる初の大事故。
	8月	水そう付消防ポンプ自動車1台購入。
	9月	西消防署増築工事完了。
	10月1日	人命救助業務の総合的運用を図るため救急センター（課相当）を設置した。水難救助隊設置。
12月	救急車（2B型）1台購入、19人増員、定数178人。	
1973年 (昭和48年)	2月3日	那覇軍港の米軍用船で塩素ガス漏れ事故、日本人従業員13人、米軍人5人が病院に収容され、東町、辻の市民多数が目と鼻、喉に痛みなどの被害が出た。
	3月20日	救急指令装置（B型）及び消防専用電話装置。
	3月27日	水そう付消防ポンプ自動車2台、化学消防自動車1台、救助工作車1台購入。
	5月	沖縄県特別国体消防警備実施。
	6月11日	18人増員、定数196人。
	9月22日	沖縄県消防学校へ教官として職員2人派遣。
	11月26日	前島町琉海ビル工事現場陥没事故、住家（全壊8棟、一部破損2棟）非住家（全壊1棟）国道58号線、市道、下水道、車両、重機等が破損埋没。
12月	はしご付消防自動車（32m）、救急自動車（2B型）各1台購入。	
1974年 (昭和49年)	1月	救急自動車（3B型）1台購入。
	3月2日	小禄聖マタイ協会前下水道工事現場において旧日本軍の改造地雷爆発事故（死者4人負傷者34人、住家全壊14棟、同半壊32棟、一部破損52棟、車両破損70台その他物件破損多数）。
	3月	高発砲自動車1台購入。
	3月15日	沖縄県消防学校開校。
	3月31日	武村朝良消防団長退任。
	4月1日	新垣正達消防団長就任。
	4月1日	鹿児島県与論島及び知名町と救急応援協定締結。

	4月15日	沖縄県消防協会事務局、沖縄県消防防災課へ移転。
	5月2日	6人増員、定数202人、消防学校へ初任科研修生10人派遣。
	5月8日	鹿児島県和泊町と救急応援協定締結。
	7月1日	伊仙町及び徳之島町と救急応援協定締結。
1975年 (昭和50年)	2月	日産自動車工業会及び日本損害保険協会から救急車（3B型）各1台寄贈。
	3月	水そう付消防ポンプ自動車（ディーゼル）2台購入。
	4月	海洋博施設の防災設備技術指導のため、本部町今帰仁村消防組合消防本部へ職員1人派遣。
	5月6日	6人増員、定数208人、臨時職員6人採用。
	6月	はしご付消防自動車（41.9m）日本損害保険協会より1台寄贈。
	7月1日	海洋博消防署へ職員6人派遣。
	7月6日	奥武山運動公園において第1回沖縄県消防駅伝大会開催。
	7月24日	末吉出張所新築開設（消防救急業務）。
	7月28日	ゆうな荘において全国消防長会九州支部役員開催。
	8月21日	自治会館において全国消防長会法制委員会開催。
	10月13日	那覇空港事務所と那覇空港及びその周辺における消火救難活動に関する協定締結。
1976年 (昭和51年)	4月1日	桜坂（牧志町2丁目70番地付近から出火）火災で（死者4人、負傷者1人、全焼9棟、部分焼2棟、焼損面積1,145㎡）。
	5月	住友生命から救急自動車（2B型）2台寄贈。
	11月	古島団地において第1回沖縄県消防救助技術大会開催。
1977年 (昭和52年)	5月1日	4人増員、定数212人。
	6月6日	不発弾処理作業、総務部基地渉外室から消防本部へ移管。
	9月1日	末吉出張所に専任の救急隊配置、救急隊を3隊に増強。
	12月27日	松尾出張所用地及び建物（旧大衆金融公庫）を那覇市土地開発公社が先行取得。
1978年 (昭和53年)	1月10日	神里原大火（死者1人、全焼27棟、部分焼9棟、焼損面積1,777㎡）。
	6月30日	南部消防協議会事務局、糸満市へ移管。
	9月1日	南部市町村消防相互応援協定締結（那覇市、糸満市、東部、島尻、豊見城村）。
	12月6日	水そう付消防ポンプ自動車（ディーゼル）2台購入。
1979年 (昭和54年)	1月22日	松尾出張所用地及び建物取得。
	3月5日	松尾出張所移転。
	4月2日	山形屋労働組合より救急自動車（2B型）1台寄贈。
	5月23日	牧志町で都市ガスによる爆発火災（死者2人、重傷1人）。
	7月3日	牧志町平和通り商店街で火災（全焼8棟、部分焼1棟、焼損面積1,417㎡）。
	10月25日	本市消防団、県操法大会において小型ポンプの部に優勝。
	10月26日	第1回沖縄県消防職員意見発表会開催。

	12月28日	水そう付消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ付水そう車（10 t）各1台購入。
1980年 (昭和55年)	1月22日	若狭水上貸ボート店舗全焼（死者1人、全焼8棟、焼損面積1,991㎡）。
	2月28日	日本損害保険協会より救急自動車（3B型）1台寄贈。
	3月25日	はしご付消防自動車（21m級）1台購入。
	3月31日	西消防署に訓練塔建設。
	9月18日	本市消防団、県操法大会でポンプ車操法、小型動力ポンプ操法に準優勝。
	12月15日	消防長 具志清一 退任（在職期間11年11ヶ月15日）
	12月15日	第3代 消防長 西原太郎 就任。
	12月18日	小祿の比嘉アパートでプロパンガス爆発（死者2人、負傷者2人）。
	1981年 (昭和56年)	1月26日
4月1日		県内離島19市町村と救急応援協定締結。
1982年 (昭和57年)		本市において第36回全国消防長会九州支部総会を開催。
	6月3日	8人増員、定数220人。
	6月15日	旅館、ホテル等に「適合マーク」交付開始。
	11月16日	桜坂バー街で大火（全焼4棟、部分焼2棟、17店舗全焼、焼損面積699㎡）。
	12月1日	松尾出張所に専任救急隊を増強（救急隊4隊）。
1983年 (昭和58年)	3月8日	救助工作車1台購入。
	3月23日	石油貯蔵施設立地対策等補助事業で救急自動車（3B型）1台購入。
	9月9日	第1回救急の日式典挙行（西消防署）。
1984年 (昭和59年)	1月9日	水そう付消防ポンプ自動車1台購入。
	2月20日	石油貯蔵施設立地対策等補助事業で救急自動車（2B型）1台購入。 西消防署小祿分遣所改築。
	3月31日	西消防署安謝出張所移転。
	4月1日	名瀬市と応援協定締結。
	11月28日	全山形屋労働組合から救急自動車（2B型）1台寄贈。
1985年 (昭和60年)	5月16日	那覇市国場の喫茶店でプロパンガス爆発（負傷者28人、り災世帯148件、り災人員574人）。
	6月1日	8人増員、定数228人。
	10月12日	国場出張所庁舎新築工事着工（昭和61年2月20日完成）。
1986年 (昭和61年)	3月1日	小祿分遣所及び首里分遣所を出張所に改称。
	3月3日	国場出張所の開所。
	9月25日	日本損害保険協会から化学消防自動車1台寄贈。
	10月19日	緊急連絡車1台購入。
	12月10日	天城町と救急応援協定締結。
1987年	4月1日	4人増員、定数232人。

(昭和62年)	8月1日	中央救急隊を国場出張所へ配置替え。
	11月25日	首里出張所庁舎新築工事着工。
1988年 (昭和63年)	4月1日	4人増員、定数236人。
	4月22日	首里出張所の開所。
	4月25日	中央消防署首里出張所新築移転に伴い、末吉救急隊を首里出張所へ配置替え。
	4月30日	新垣正達消防団長退任
	5月1日	知念 勇消防団長就任
	8月19日	那覇市婦人防火クラブ結成（8支部173人）初代会長に小渡ハル子就任。
1989年 (昭和64年)	1月6日	第40回消防出初式挙行（漫湖公園）。
	1月7日	西救助隊を松尾出張所へ配置替え。
1989年 (平成元年)	1月8日	昭和から平成へ元号改まる。
	2月18日	地図検索装置購入。
	3月3日	末吉出張所に救助工作車を配置。
	3月31日	消防長 西原太郎 退任（在職期間8年3ヶ月17日）
	4月1日	第4代 安里周昌 就任。
	4月1日	構造改革に伴い消防本部の組織を総務課、予防課、警防課、指令課の4課とする。
	4月1日	不発弾処理作業を市長事務部局総務部総務課へ移管する。
	8月4日	（財）日本消防協会から電源照明用資器材等搬送車1台寄贈。
	9月26日	沖縄県知事から表彰旗を授与。
	12月9日	首里赤田クラブ敷地内に防火水そう（40m <sup>3</sup> ）一基新設。
1990年 (平成2年)	2月7日	全山形屋労働組合から救急自動車（2B型）1台寄贈（あしなみ3号）。
	2月22日	緊急人員輸送車（26人乗）1台購入。
	3月8日	消防庁長官から竿頭綬を授与。
	3月28日	無線指揮者1台購入。
	3月29日	消防本部に消防無線（固定局10w）なはしょうぼういずみぎき 開局。
	3月31日	無線中継装置を水道局庁舎7階に設置。
	4月26日	本市において、全国消防長会九州支部春季役員会開催。
	4月27日	本市において、全国消防長会九州支部総会及び九州地区消防職員意見発表会開催。
1991年 (平成3年)	3月15日	消防緊急情報システムⅡ型購入。
	6月27日	沖縄県消防救助技術指導会第1回の上水の部を沖縄市営プールにおいて開催。
	8月27日	救急救命士法の制定に伴い、救急救命士を養成するため救急救命中央研修所は職員1人を派遣。
	10月16日	本市婦人防火クラブが全国婦人消防操法大会に県代表として出場。
	12月16日	はしご付消防自動車（30m）1台購入。
1992年	1月6日	那覇市東町ロータリークラブ（下川 満会長）からオートバイ（50cc）6台寄贈。



(平成4年)	5月22日	第1回救急救命士国家試験に1名合格。6月1日登録誕生。
	10月6日	本市において、全国消防長会九州支部秋季役員会開催。
1993年 (平成5年)	4月1日	2人増員、定数238人。
	5月1日	機構改革に伴い、署長の階級を消防司令長から消防監に、総務課、予防課へ主幹（消防司令）を設置。なお、予防課指導係、予防課査察係を予防課指導査察係に改める。
	7月5日	16時50分頃、鏡水崎原地崎、沖縄県自由貿易地域内での除外施設貯溜槽内で作業中、ガス酸欠事故（死亡2人、救助1人）。
	10月14日	那覇市消防団の組織及び消防団員の階級に関する規則（昭和47年那覇市規則第56号）の一部改正。
	12月9日	泊南公園に防火水そう（40m <sup>3</sup> ）一基新設。
1994年 (平成6年)	3月30日	日本損害保険協会から高規格救急自動車1台寄贈。
	3月31日	消防長 安里周昌 退任（在職期間5年）
	4月1日	第5代 消防長 玉城靖威 就任
	7月14日	第24回九州地区消防救助技術指導会を那覇市漫湖公園で開催する。（水上の部は奥武山運動公園プールにて開催）。
	11月11日	全山形屋労働組合から救急車（2B型）1台寄贈（あしなみ号）。
	11月16日	高規格救急車の運用（Ⅱ課程、標準課程修了者による運用）。 救急伝送装置を県立那覇病院、沖縄赤十字病院、那覇市立病院へ設置。
1995年 (平成7年)	4月1日	1人増員定数239人。
	4月1日	救急救命士3人採用、救急救命士総数4人。
	4月5日	救急救命九州研修所へ職員1人派遣。
	11月2日	第8回救急救命士国家試験に1人合格。11月21日登録誕生。救急救命士総数5人。
	12月1日	「救急救命士」の本格運用開始。
	1996年 (平成8年)	1月20日
2月15日		40m梯子車購入（代替）。
3月31日		消防長 玉城靖威 退任（在職期間2年）
4月1日		第6代 消防長 松田 進 就任
4月1日		救急救命士資格取得者2人採用、救急救命士総数7人。
4月7日		救急救命九州研修所へ職員1人派遣。
5月31日		金城2丁目17番2に小禄出張所を新築移転する。
10月22日		九州地区消防緊急援助隊訓練参加（熊本県 参加隊員10人）
11月13日		第10回救急救命士国家試験に1人合格。11月27日登録誕生。救急救命士総数8人。
12月5日		第22回九州地区消防駅伝大会を奥武山陸上競技場で開催。
1997年 (平成9年)	1月21日	指令車購入。
	4月6日	救急救命九州研修所へ職員1人派遣。
	10月7日	九州地区消防緊急援助隊訓練参加（福岡県 参加隊員10人）

	11月6日	第12回救急救命士国家試験に1人合格。11月19日登録誕生。救急救命士総数9人。
	12月31日	平成8年度不発弾処理件数、7件、避難所帯5,516世帯。
	12月31日	昭和49年からの那覇市における不発弾処理件数170件。避難述べ所帯、179,641世帯、避難述べ人員6,310,989人。
1998年 (平成10年)	4月6日	救急救命九州研修所へ職員派遣。
	4月23日	本市において、第52回全国消防長会九州支部総会開催。
	10月5日	九州地区消防緊急援助隊訓練参加(大分県 参加隊員5人)
	11月5日	第14回救急救命士国家試験に1人合格。12月1日登録誕生。救急救命士総数10人。
1999年 (平成11年)	3月31日	消防長 松田 進 退任(在職期間3年)
	4月1日	第7代 消防長 中村政敏 就任
	4月1日	3人増員定数242人。
	4月1日	救急救命士資格者1人採用、救急救命士総数11人。
	4月29日	先進国首脳会議の開催地が沖縄県に閣議決定される。(九州・沖縄サミット会議)
	9月6日	沖縄県サミット消防警備対策室へ職員2名派遣。
	9月22日	大型で非常に強い台風第18号(968.8hpa・最大瞬間風速58.9m/s)が本島に上陸し、2日間本島地方を勢力範囲に包み込み、各地域に多大な被害を出した。本市消防での119番受理件数992件、出動件数222件に上った。
	10月13日	救急救命九州研修所へ職員派遣(1人)。
	10月19日	九州地区消防緊急援助隊訓練参加(長崎県 参加隊員5人)。
	12月27日	緊急救助資器材搬送車購入。
	12月31日	本部内に2000年問題対策本部を設置し、元旦にかけ消防警備を実施。
	2000年 (平成12年)	1月20日
1月21日		水そう付消防ポンプ自動車2台購入。国・小禄出張所配置(水Ⅱ型)。
4月1日		8人増員定数250人。
4月1日		救急救命士資格者1人採用、救急救命士総数12人。
4月21日		第17回救急救命士国家試験に1人合格。5月16日登録誕生。救急救命士総数13人。
7月21日		九州・沖縄サミット会議の首脳会議(G8)が名護市で開催される。サミット消防警備に職員52名を派遣する。(7月21日～23日) 歓迎晩餐会が首里城で催され、通常体制を増員し消防警備にあたる。
10月4日		救急救命九州研修所へ職員派遣(1人)。
2001年 (平成13年)	1月29日	水そう付消防ポンプ自動車1台購入。末吉出張所配置(水Ⅱ型)。
	1月31日	資機材搬送車購入。警防課に配置。
	4月1日	7人増員定数257人。
	4月1日	救急救命士資格者3人採用、救急救命士総数16人。
	4月18日	第19回救急救命士国家試験に1人合格。6月25日に登録誕生。救急救命士総数17人。
	7月19日	第30回九州地区消防救助技術指導会が那覇市で開催。

		(陸上の部：奥武山運動公園多目的広場 水上の部：奥武山運動公園プール)
	11月1日	第20回救急救命士国家試験に1人合格。12月13日に登録誕生。救急救命士総数18人。
2002年 (平成14年)	3月1日	安謝の救急高規格車運用開始
	3月31日	消防長 中村政敏 退任 (在職期間3年)
	4月1日	第8代 久田友憲 就任
	4月1日	救急救命士資格者1人採用、救急救命士総数19人。
	11月	救急救命九州研修所へ職員派遣 (1人)
2003年 (平成15年)	2月25日	救急救命士国家試験に1人合格、救急救命士総数20人。
	3月31日	消防長 久田友憲 退任 (在職期間1年)
	4月1日	第9代 消防長 大田和人 就任。
	4月1日	救急救命士資格者4人採用、救急救命士総数23人。
	4月18日	第23回救急救命士国家試験に1人合格。4月30日に登録誕生。救急救命士総数24人。
	4月	救急救命九州研修所へ職員派遣 (1人)
	10月24日	那覇市銘苅2丁目3番8号に新消防本部庁舎が完成。
	11月4日	消防本部 (総務課、警防課、予防課) 及び西消防署が新消防庁舎 (那覇市銘苅2丁目3番8号) へ移転し旧西消防署 (那覇市東町26-12) を西消防署松尾分遣所に改称、同時に中央消防署末吉出張所を廃止。
11月5日	第24回救急救命士国家試験に1人合格。12月5日登録誕生。救急救命士総数25人。	
2004年 (平成16年)	2月3日	指令課が西消防署松尾分遣所から新消防庁舎に移転、同時に指令課から指令情報課に改称。
	2月10日	新消防庁舎のお披露目式を開催、同時に消防緊急通信指令システムが本稼働。
	3月20日	首里出張所に高規格救急車を配備、那覇市の全救急隊が高規格救急車の運用となる。
	4月1日	18人増員、定数275人。
	4月1日	那覇市の消防吏員の階級に「消防副士長」制を採用。
	4月1日	救急救命士資格者3人採用、救急救命士総数28人。
	4月	救急救命九州研修所へ職員派遣 (1人)
	9月1日	次長を「副消防長」に職名を変更。
11月2日	第26回救急救命士国家試験に1人合格。11月18日登録誕生。救急救命士総数29人。	
2005年 (平成17年)	1月1日	牧志3丁目で大火 (全焼5棟、半焼2棟、ぼや2棟、焼損面積1,170㎡)
	1月28日	社団法人 日本損害保険協会より高規格救急自動車1台の寄贈を受け、松尾出張所へ配備。
	2月22日	平成16年度防衛補助で、高規格救急自動車を国場出張所へ配備
	4月1日	救急救命士資格者4人採用、救急救命士総数33人。
	4月9日	第47回 I D B (米州開発銀行) 年次総会が沖縄県で開催 (4/10~4/12) されるにあたり、消防警備にあたる。

	6月10日	第3回全国緊急消防援助隊合同訓練が静岡県静岡市で実施され、那覇市から4人参加。
	11月22日	うるま市中城湾新港地区において、11月22日、23日の両日にわたり、沖縄県で初めての緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練が実施された。那覇市は代表消防本部として参加
	12月20日	高度救助資器材（ファイバースコープ、サーチカム2000、地中音響探知機、熱画像直視装置、夜間暗視装置）を購入し、西消防署に配置する。
2006年 (平成18年)	2月24日	新西消防署庁舎完成
	2月28日	消防本部庁舎に仮配置されていた西消防署が新庁舎に移転し、中央消防署が消防本部庁舎に移転する。また、中央消防署移転後、真和志出張所に改称。
	2月28日	防衛庁補助で、高規格救急車（4輪駆動）を購入し、新西消防署に配置
	3月1日	消防本部に救急課を新設
	3月1日	西消防署に特別救助隊発足配置される。（総員18名）
	3月20日	水難救助資器材として、高度救助資器材（小型水中カラーテレビカメラ、水中スピーカーアンプセット）を購入する。
	3月20日	地震等で自動車での緊急対応が出来ない場合等の車両として、オフロードバイク（250cc）2台を購入し、中央消防署に配置する。
	3月24日	本市消防本部で初の水そう付消防ポンプ自動車（四輪駆動車）を購入し、首里出張所（世界遺産群特別警防隊）に配備する。 中央消防署に配置されている梯子車2号（30m）のオーバーホールが終了。
	3月30日	首里出張所に世界遺産群特別警防隊が発足する。（総員16名）
	4月1日	救急救命士資格者2人採用、救急救命士総数35人。
	4月7日	救急救命九州研修所へ職員派遣（1人）
	5月11日	全国消防長会九州支部総会が、都ホテルで開催される。
	5月26日	第4回太平洋・島サミットが沖縄県で開催されるにあたり、消防警備にあたる。
	5月31日	松山の雑居ビルで放火により火災が発生（死者1人、負傷者5人）
	6月1日	消防法改正により、那覇市火災予防条例で新築住宅に住宅用火災警報器等の設置が義務づけされる。（既存住宅は、平成23年6月1日から義務化）
	6月12日	首里鳥堀町5丁目において、長雨による影響により地滑りが発生、建物が倒壊する恐れがあることから14世帯40人に避難指示、14世帯46人に避難勧告を発令（6月15日に災害救助法適用）
	11月17日	日本損害保険協会から小型動力ポンプ付軽消防車1台寄贈。
	12月25日	0時を起点に気管挿管、薬剤投与の業務開始（挿管4人、薬剤1人）
2007年 (平成19年)	3月19日	防衛庁交付金により指揮広報車（4輪駆動）1台購入。
	3月23日	防衛庁補助により救助工作車（4輪駆動）1台購入。
	3月31日	大田和人消防長 退任（在職期間4年）
	4月1日	第10代 消防長 宮平 智 就任
	4月1日	新規採用職員10人、うち救急救命士資格者3人。

		職員総数271人、救急救命士総数38人。
	4月1日	総務部総務課防災室の参事監に消防長、副参事監に副消防長が任命される。
	4月20日	第30回救急救命士国家試験に1人合格。5月7日登録誕生。救急救命士総数39人。
	6月1日	救助資機材及び潜水資機材等（チェーンソー(7台)、エンジンカッター（7台）、空気呼吸器一式(50器)、BC・レギュレーター（各40セット）をリース契約によりリース運用開始（5年リース）
	6月1日	指揮車及び各課事務連絡車等をリース契約によりリース運用開始(8台・6年リース)
	6月26日	情報番組「FMレキオへ ようこそ！」（毎週月曜日17時05分から17時20分）番組初出演各課・署が持ち回りで消防に関する様々な情報を提供する
	8月11日	8月10日から12日にかけての沖縄本島地方の大雨により蔡温橋一帯で、安里川が氾濫。道路冠水7件、建物等浸水12件、地盤沈下1件、土砂崩れ等2件、その他(広報警戒)4件の出動があり、消防車両延べ36台、延べ人員138人が出動する。 那覇市長田のマンション建設現場で地割れが発生し、建設現場に隣接するマンションや住宅の104世帯に避難指示、12世帯に避難勧告。消防車両延べ59台、延べ人員181人が警戒にあたる。
	8月20日	中華航空機火災が発生（負傷者5人）
	9月	救急救命九州研修所へ職員派遣（1人）
	10月1日	那覇市消防本部総務課内に次年度沖縄開催予定の九州地区消防救助技術指導会事務局を立ち上げる。
	10月14日	辻町2丁目風俗店で火災が発生(死者3人、負傷者6人)
	11月7日	全国消防長会九州支部役員会が那覇市(パシフィックホテル沖縄)で開催される。
	12月21日	第3回県民救急・災害フォーラム実行委員会からAED及び蘇生人形が贈呈される。
2008年 (平成20年)	4月1日	新規採用職員8人、うち救急救命士資格者3人。 職員総数270人、救急救命士総数42人。非常勤職員1人・臨時職員1人採用。
	4月10日	第31回救急救命士国家試験に1人合格。4月23日登録誕生。救急救命士総数43人。
	5月1日	非常勤職員1人採用。
	7月18日	第37回九州地区消防救助技術指導会が北谷町で開催。（事務局是那覇市消防本部総務課内に設置）
	8月24日	那覇市女性防火クラブ結成20周年記念式典を開催。
	8月25日	財団法人宝くじ協会防災関連整備事業の一環で「消火・通報訓練指導車」（通称：けすゾウくん）が那覇市消防本部予防課に配備。
	9月9日	救急救命九州研修所へ職員派遣（1人）
	9月13日	那覇市救急・防災フェアを新都心公園で開催。
	10月1日	防火衣等をメンテナンスリース事業契約により運用開始。
2009年	2月2日	消防大学校NBC特別高度救助コースへ職員派遣（1人）

(平成21年)	16日	東京消防庁へ研修派遣（救急隊員1人）
	23日	横浜市安全管理局へ研修派遣（予防課職員1人）
	4月1日	新規採用職員12人、うち救急救命士資格者4人。 職員総数271人、救急救命士総数47人。非常勤職員1人・臨時職員1人採用。 市町村消防の広域化に向けて、消防本部に広域対策準備室を設置。 3部制交替勤務を試行開始。
	4月14日	第32回救急救命士国家試験に1人合格。7月10登録誕生。救急救命士総数48人。
	5月15日	九州地区消防意見発表会へ沖縄県代表として出場。
	7月1日	中央消防署に特殊災害対応隊が配置される。（総員15人）
	8月19日	局地的な大雨により、ガープ川で鉄砲水が発生。 経済連付近の河川内で作業中の男性5人が暗渠内に流され、1人を救助。（死者4人）
	9月9日	救急救命九州研修所へ職員派遣（1人）
	9月12日	那覇市救急・防災フェアを消防本部で開催。
	10月1日	総務省消防庁へ研修派遣（1人）
2010年 (平成22年)	1月7日	那覇市消防本部予防課 臨時職員12人 那覇市西消防署1人・那覇市中央消防署1人採用。（緊急雇用創出事業による任用）
	2月8日	総務省消防庁へ派遣職員の間接報告会
	2月15日	横浜市安全管理局へ研修派遣（予防課職員1人・救急課職員1人）
	3月19日	地域活性化経済危機対策臨時交付金事業（公共施設緑のカーテン事業）で消防本部庁舎・西消防署庁舎に壁面緑化をする。
	3月30日	地域活性化経済危機対策臨時交付金事業でインフレーターボートを購入。
	4月1日	新規採用職員9人、うち救急救命士資格者2人 職員総数271人、救急救命士総数50人。非常勤職員3人、臨時職員15人採用。
	4月13日	第33回救急救命士国家試験に1人合格。4月21日登録誕生。救急救命士総数51人。
	6月4日	第4回緊急消防援助隊全国合同訓練に2隊7名参加。（愛知県開催）
	9月9日	救急救命九州研修所へ職員派遣（1人）
	9月11日	那覇市救急・防災フェアを那覇市消防本部で開催。
	10月15日	総務省消防庁より後方支援車の無償貸与をうける。
	10月17日	首里鳥堀町4-76住宅建築工事現場にて米国製8インチ艦砲弾1発を現地爆破処理を行う。
2011年 (平成23年)	2月15日	高機能消防緊急通信指令システムを更新し運用を開始する。
	3月17日 ～20日	東日本大震災に伴い緊急消防援助隊（14人）を岩手県九戸郡野田村に派遣する。
	3月31日	第10代 消防長 宮平 智 退任（在職期間4年）

	3月31日	救命資格者1名退職。救急救命士総数50名。
	4月1日	救急救命士2名採用。救急救命士総数52名。 第11代 消防長 前原常雄 就任 西消防署に高度救助隊配置（西消防署に配置されていた特別救助隊は中央消防署へ）中央消防署に特別救助隊配置。
	4月12日	第34回救急救命士国家試験に合格。5月11日登録誕生。救急救命士総数53名。
	4月18日	救急救命九州研修所、薬剤追加講座へ職員派遣（1人）。
	6月1日	既存を含む一般住宅の住宅用火災警報器設置完全義務化。
	7月29日	第11代 消防長 前原常雄 参事監へ職名変更。
	8月3日	第12代 消防長 仲里仁公 就任。
	9月9日	救急救命士養成課程研修へ職員派遣（1人）。
	9月10日	那覇市救急・防災フェアをサンエー那覇メインプレイスで開催。
	9月5日 ～19日	ロープレスキューテクニシャンコース開催。 （在沖米海兵バトラー消防基地インストラクター宮城氏を招聘。救助隊8名が受講し、終了資格を得る。）
	11月4日 ～5日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練宮崎県で開催。4隊14人派遣参加。
	11月7日	松尾出張所に日勤救急隊1隊運用。
	12月28日	緊急消防援助隊設備整備費補助金で高規格救急車を購入（中央救急隊へ配置）。
2012年 (平成24年)	2月9日 ～10日	沖縄県震災対応消防合同訓練へ5隊22名が参加。
		通信指令研修開催
	3月12日	特殊災害対応車を購入、中央消防署（特別救助隊）へ配置する。
	3月16日	沖縄県農業協同組合より高規格救急車（救急12号車）の寄贈を受ける（西救急隊へ配置）。
	4月1日	救急救命士2名採用 救急救命士総勢54名。 真和志出張所に日勤救急隊2隊目発足。
	5月21日	救急救命士国家試験に1名合格。救急救命士総勢55名。
	6月20日	総務省消防庁より緊急消防援助隊に伴う沖縄県指揮隊車の無償貸与を受ける。
	9月	第1回那覇市消防本部水難救助大会を実施。 那覇市救急・防災フェアをイオン那覇店で開催。
	10月1日	平成25年度に沖縄県で開催される緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練担当として沖縄県知事公室防災危機管理課へ職員1名を派遣。
	10月13日	日勤救急隊2隊を統廃合し正規の救急隊6隊目増隊（松尾出張所へ配置）。
	10月23日	南部地区消防総合訓練を那覇市で開催（セルラースタジアム）。
	10月	勤務取扱い等運用方針策定
		1月

2013年 (平成25年)	2月19日	災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を購入、国場出張所へ配置
	3月	重機搬送車と消防小型重機を総務省消防庁から無償貸与される。
	3月31日	第12代 消防長 仲里 仁公 退任（在任期間1年7ヶ月）
	4月1日	第13代 消防長 玉城 則雄 就任 那覇市職員定数条例に定める消防職員の定数を346人へ変更 副署長の階級を消防司令長に引き上げる。 救急救命士2名採用 救急救命士総勢56名
	11月25日	東日本大震災の消防活動に貢献した功績として『消防団120年・自治体消防制度65周年』式典において内閣総理大臣賞を受賞する。
	11月26日 ～28日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練が沖縄県にて開催される。
2014年 (平成26年)	2月13日	(仮称)樋川出張所建設に伴う住民説明会（場所：神原中学校武道場）
	3月	津波・大規模風水害対策車を総務省消防庁から無償貸与される。
	4月1日	那覇市消防本部から那覇市消防局へ改称 初代消防局長に玉城則雄が就任。
	5月8日	全国消防長会九州支部総会を那覇市で開催
	5月9日	九州地区消防職員意見発表会を那覇市で開催
	6月	天皇皇后行幸啓に伴う消防警備実施
	8月4日 ～5日	夏休みわくわく消防体験宿泊学習初開催
	8月	第1回那覇市消防局ポンプ車機関員養成プログラム実施
	12月11日	高規格救急車を購入、松尾救急隊へ配置
2015年 (平成27年)	3月4日	災害対応多目的車を購入、中央消防署へ配置
	3月25日	沖縄県で初となるバス型救助工作車（Ⅲ型）を購入、西消防署へ配置
	3月31日	初代 消防局長（第13代消防長） 玉城 則雄 退任（在任期間2年）
	4月1日	第2代 消防局長（第14代消防長） 徳元 律夫 就任 予防課内に査察に特化した『機動査察係』が発足 中央署3名 西署3名 職員総数270人（出向者は除く）、うち新規採用職員6人。
	6月5日	那覇市消防局消防車両お披露目式を実施 ※平成26年度購入車両3台 高規格救急車・災害対応多目的車・Ⅲ型救助工作車
	7月31日	全国消防長会九州支部総務関係実務研修会を那覇市で開催
	10月20日	30m級先端屈折梯子付消防ポンプ自動車を購入、西消防署へ配置
	11月13日 ～14日	第5回全国緊急消防援助隊合同訓練に3隊18名が参加（千葉県市原市）
	11月24日	派遣型救急ワークステーション試行運用開始 南部医療センター・沖縄赤十字病院・沖縄協同病院・大浜第一病院



2016年 (平成28年)	1月9日	那覇市消防出初式を沖縄セルラースタジアム那覇エントランス広場で開催
	2月26日	高規格救急車を購入、首里救急隊へ配置
	3月11日	災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を購入、西消防署へ配置
	3月31日	第2代 消防局長（第14代消防長） 徳元 律夫 退任（在任期間1年） 松尾出張所及び真和志出張所を廃止。
	4月1日	第3代 消防局長（第15代消防長） 平良 真徳 就任 神原出張所運用開始 配置職員 総員30名
	4月16日 ～23日	平成28年熊本地震に伴い緊急消防援助隊を熊本県に派遣する。 ・4月16日（土）から21日（木） 第1次派遣隊 26名 活動地区：熊本市内、益城町 (内訳：指揮隊 1隊 5名、消火隊 1隊 5名、救助小隊 1隊 5名、救急小隊 1隊 3名、後方支援小隊 1隊 6名、特殊装備小隊 1隊 2名) ・4月20日（水）から23日（土） 第2次派遣隊 12名 活動地区：熊本市内、南阿蘇村 (内訳：指揮隊 1隊 3名、救助小隊 1隊 5名、後方支援小隊 1隊 2名、特殊装備小隊 1隊 2名)
	8月2日	沖縄県MC協議会から指導救命士の認定を受ける。 指導救命士 総数 1名
	9月3日	沖縄県総合防災訓練を竹富町西表島にて開催 4隊 13名参加派遣
	9月10日	那覇市制施行95周年記念 那覇市救急・防災フェアを消防局庁舎にて開催
	9月20日	高規格救急車を購入、国場出張所へ配置
	9月26日～ 10月13日	第1回消防活動効果確認訓練の実施
	10月31日	40m級梯子付消防ポンプ自動車を購入、中央消防署に配置
	11月5日 ～6日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練が長崎県雲仙市で開催 5隊 20人参加派遣
11月7日	三原地区で木造平屋空き家からの出火により火災発生（全焼 3棟、部分焼 2棟）	
2017年 (平成29年)	2月17日 ～25日	第1期那覇市救助隊員教育研修の実施 消防長が認める救助隊員として、6名が認定を受ける。
	2月28日	災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を購入、神原出張所へ配置
	3月28日	全国初となるハイパーミストブローカーを購入、小禄出張所へ配置
	5月2日	那覇市消防局消防車両お披露目式を実施 ※平成28年度購入車両4台 高規格救急車、40m級梯子付消防ポンプ自動車、 災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車、ハイパーミストブローカー

5月24日	第40回全国消防職員意見発表会（開催地：愛知県名古屋市）において、九州支部代表として出場した宮城貴洋士長が、沖縄県初となる優秀賞（全国2位）受賞
6月30日	第46回九州地区消防救助技術指導会を沖縄県消防学校で開催。（事務局は那覇市消防局総務課内に設置）
7月8日	那覇市消防訓が制定される【一、使命 一、素養 一、成果】
9月27日	燃料補給車を総務省消防庁から無償貸与される。
10月11日	高規格救急車を購入、小禄出張所へ配置
11月11日 ～12日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練が佐賀県武雄市で開催 6隊 20人参加派遣
11月19日	消防団加入促進支援事業（消防庁委託事業）消防団祭り！入ろう消防団！を開催 開催場所：サンエー那覇メインプレイス オープンモールテラス
12月20日	水槽付消防ポンプ自動車（CD- I 型）を購入、中央消防署へ配置